

Ⅳ 地域公共交通連携計画の区域

【対象区域】



V 地域公共交通連携計画の目標

基本方針に沿って具体的な事業を実施し、今後 3 年間に到達すべき航路利用の目標と目標値を設定する。

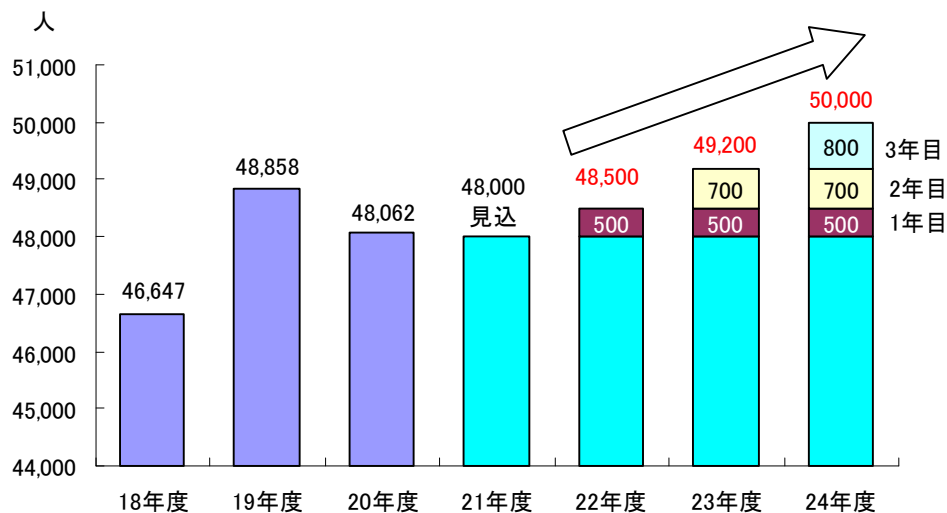
【目標】

獅子島及びその周辺地域住民に欠かせない交通機関として獅子島航路の存在価値を高め、地域間移動や広域観光交流を促進し、長島町、天草市、水俣市の 3 方面からの航路利用者を増加させることを目標とする。

【目標値の設定（22 年度～24 年度）】

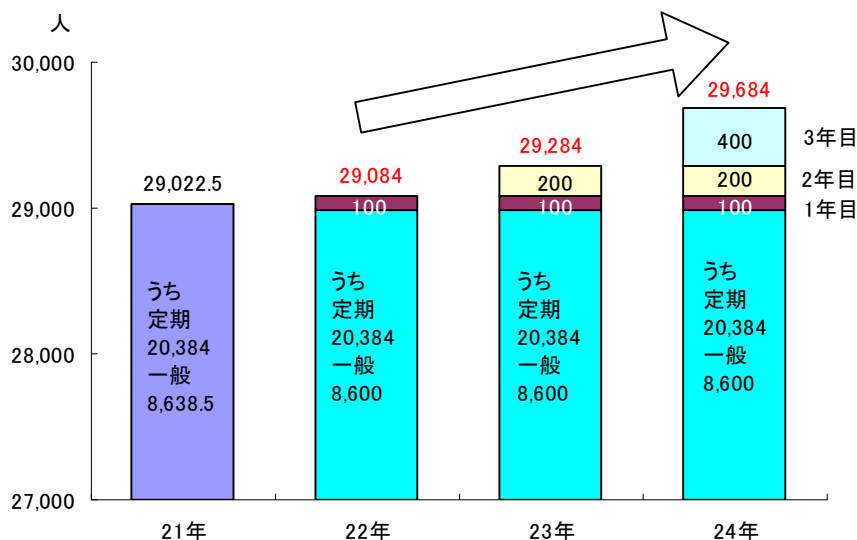
- ・ 長島～獅子島～天草航路 2,000 人（22 年度 500 人、23 年度 700 人、24 年度 800 人）
※最終年次の年間利用者 約 50,000 人
- ・ 長島～獅子島航路 700 人（22 年度 100 人、23 年度 200 人、24 年度 400 人）
※最終年次の年間利用者 約 30,000 人
- ・ 獅子島～水俣航路 2,000 人（22 年度 500 人、23 年度 700 人、24 年度 800 人）
※最終年次の年間利用者 約 15,000 人

■ 航路利用者数（実績及び目標）：ロザリオ
長島（諸浦港）～獅子島（片側港）～天草（中田港）航路



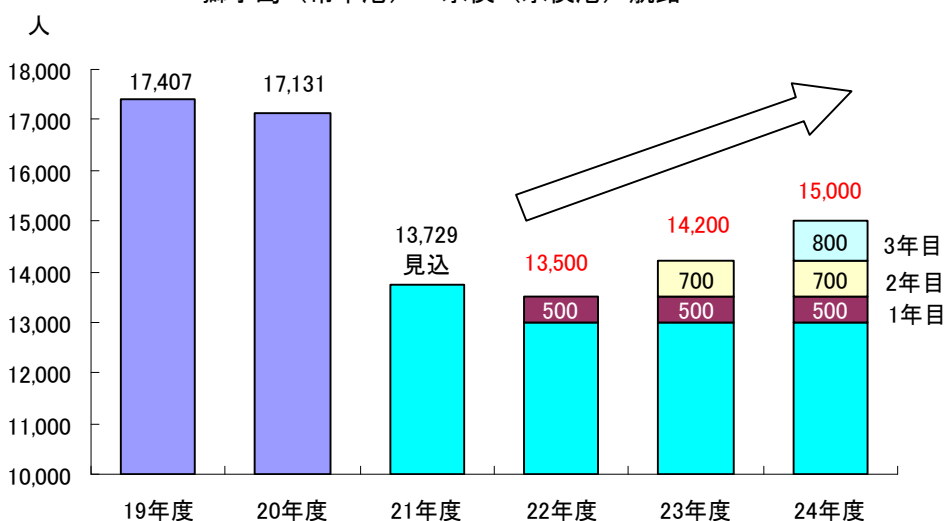
○近年の旅客数（車両運転手は除く）は 48,000 人台で推移。過去には 50,000 人を超えたこともあり。天草・獅子島・長島住民の地域間移動や本連携計画で取組む事業の効果が最も期待される航路で、現状比 2,000 人の増加を見込む。

■航路利用者数(実績及び目標):すずかぜ2
長島(諸浦港)～獅子島(片側港・御所ノ浦港)航路



○獅子島住民の生活航路で1日1往復の運航のため、定期利用者が7割を占める。不定期クルーズとして利用促進を図り、現状比700人の増加を見込む。

■航路利用者数(実績及び目標):ししじま
獅子島(幣串港)～水俣(水俣港)航路



※21年8月より3往復へ減便しており、13,000人をベースに目標設定

○平成19年から1日4便体制でスタートした本航路は、経費削減、効率化の観点から21年8月から1便減便し、3便体制で運航している。その結果、21年度は3,400人の減少が見込まれる。

○獅子島住民にとって本航路は重要な生活航路であるが、一般客にとって幣串港から片側港までの移動手段が確保しにくいことから、水俣と長島・天草との移動に不便さが見受けられる。本事業で、そうした課題を解決し、地域間移動や「新幹線駅から1時間圏の島の旅」を演出し、当面は15,000人の水準を目指す。

Ⅵ 目標を達成するために行う事業及び実施主体

事業１ 航路の魅力創出事業

事業１－１ 利便性追求事業

（１）島内移動の確保に関する実証実験（船舶・バス・レンタサイクル）

①「ししじま」による幣串港～片側港の実証運航

獅子島及びその周辺地域住民の長島方面、天草方面への新たな地域間移動ニーズを確保するため、獅子島～水俣航路において幣串～片側間の実証運航を行う。片側港が接続ポイントとなり、住民の円滑な移動の確保や船を介した移動時間の短縮が図られ、航路利用者の満足度も向上するとみられる。

本航路の指定区間は「獅子島のいずれかの港と水俣港との間」とされ、また鹿児島県、長島町、水俣市から航路補助を受けており、それらを調整し、不定期にて期間を限定して実証運航し、住民や利用者のアンケートにより利便性向上の評価を行う。

■実施主体：獅子島汽船、長島町

■実施期間：２２年度～２４年度

【フェリー移動時間】



※現状では幣串港と片側港を結ぶ航路はない

②獅子島巡回バスの実証運行

船舶との接続や島内移動を容易にし、航路利用を促進するために獅子島巡回バスのダイヤを見直す。特にフェリー「ロザリオ」との接続を改善する。また、片側港にバス停を新設するとともに、獅子島島内に配置しているバス（公用車）を巡回バスとして活用する。

■実施主体：長島町

■実施期間：２２年度～２４年度

③セット切符の発行

航路利用者アンケートをみても往復割引サービスの設定が回答の半数以上を占めるなど、航路利用者はより割得感のある運賃設定を求めており、これに対応しつつ船舶事業者を圧迫しないサービスチケットを発行する。

天草諸島と本土を獅子島経由で移動する顧客への特別割引、来島者へのレンタサイクル割引などの特典を付与し、記念にもなる記念乗船券や、二次交通機関との連携によるチケ

ットなどを制作し、順次実験販売する。

■実施主体：天長フェリー、波戸汽船、獅子島汽船、バス事業者、鉄道事業者

■実施期間：H 2 3 年度～2 4 年度

④レンタサイクルの導入

電動アシスト付き自転車を 10 台程度購入し、船舶待合所に常備し、来島者に貸出す。
主に体験学習等の観光客の島内移動に利用する。

■実施主体：長島町

■実施期間：H 2 3 年度～2 4 年度

（２）航路と新幹線をつなぐ実証実験

獅子島及び周辺地域住民の新幹線利用ニーズに対応するとともに、「新幹線駅から 1 時間で行ける島（化石の島、獅子の島）」としてアピールすることで、観光客の航路利用を促進する。

①新幹線を降りてから獅子島に至るアクセスの実証実験（旅客船利用型）

・新幹線のダイヤに合わせて、路線バス・船舶の接続を見直す。

②環八代海ルート（水俣・獅子島・天草・長島）の実証実験（フェリー利用型）

・環八代海ルートとして、新幹線駅（新水俣駅・出水駅）から観光バスやレンタカーによるモニターツアーを実施し、航路を利用した周遊コースを造成する。

■実施主体：長島町、天長フェリー、波戸汽船、獅子島汽船

■実施期間：H 2 2 年度～2 4 年度

（３）不定期クルーズ運航（団体移動、イベントクルーズ、体験遊漁）

旅客船「すずかぜ 2」は朝夕の運航のため日中かなり長い時間、停泊したままの状態である。そこで、この時間帯を島民の会合などにともなうチャーターや、周辺地域からの来島者向けのクルーズなどに振り当て、定期航路の範囲内で不定期便として運用する。

現状、同船は遊漁船の免許を有し、魚釣りに関わるイベントにも運用された実績がある。獅子島への海からのアプローチやツーリズム利用も考える総合的な連携システムを考え、この余剰時間帯に船舶を活かすことで船舶の稼働率向上、増収効果、雇用の維持が見込まれる。

■実施主体：波戸汽船、獅子島振興会

■実施期間：H 2 2 年度～2 4 年度

【想定される具体的なプログラム】

- ・島内集落間移動（会合・イベント時）の不定期利用に関する実証実験
- ・周辺地域との連携による来島者ツアーへの利用実験（フェリー「ロザリオ」、旅客船「し

しじま」との連携)

- ・ イベント時（獅子島ウォーク等）の特別運行実験
- ・ 体験イベント、定置網見学など、船舶を使ったイベントクルーズ開催実験

事業 1-2 船舶・待合所の魅力向上事業

（1）船舶機能・快適性向上（リペイント・魅力的な船内への転換）

船舶の定期的なドック入りは低コストで改修できる機会であることから、船の内外を徹底的に見直し、「低予算で良い船」にする計画を提案・実施する。

■実施主体：天長フェリー、波戸汽船、獅子島汽船

■実施期間：H 2 2 年度～2 4 年度

【想定される具体的なプログラム】

- ・ ドック入りに伴う外観リペイント実施（行き先表示、寄港地表示等）
- ・ フェリー内、旅客船内に情報コーナーを設置

（2）航路ガイド整備（音声や映像で紹介）

経済圏を同じくする周辺地域と十分な協議を重ねつつ互いの地域情報を船内での案内放送に反映させ、旅客の移動をサポートすることで船舶の利用促進を図る。また、乗組員や地上職員のユニフォーム改善やホスピタリティ教育を行い、旅客へのサービス向上と連携地域案内の役割を担ってもらう仕組みをつくる。

■実施主体：天長フェリー、波戸汽船、獅子島汽船

■実施期間：H 2 2 年度～2 4 年度

【想定される具体的なプログラム】

- ・ 乗り継ぎ情報、到着地ガイド、航路案内を盛り込んだ船内放送の制作
- ・ 旅客船非定期クルーズ用沿海案内放送の制作
- ・ 航路スタッフユニフォーム改善、サービス向上、案内ガイド研修の実施

（3）待合所の機能強化（物販、飲食、情報発信）

待合所では特に住民、来島者の双方が船待ちの時間を利用して必要な情報を享受できる。そこで住民への情報と来島者への情報に分けた獅子島情報コーナーを設置する。また、各港の待合所の整備状況に合わせて、物販・飲食・情報発信の機能を強化する。

①獅子島航路関連の各待合所内に情報コーナーを設置（獅子島・水俣・長島・天草）

②特産品販売や軽食サービスの提供

■実施主体：長島町、水俣市、天草市、天長フェリー、波戸汽船、獅子島汽船

■実施期間：H 2 2 年度～2 4 年度

事業2 航路の認知度向上事業

事業2-1 港湾・航路案内の充実

(1) 獅子島航路をアピールするための航路案内地図（ボード）、案内板の設置

獅子島と長島・天草・水俣を結ぶ3つの航路の特徴をアピールするための航路案内地図や獅子島の各港から島内を訪れるための誘導サインや乗場表示、時刻表表示などの案内板を設置する。なお、航路案内地図や案内板の作成にあたっては、化石や獅子をイメージできるロゴを作成し、デザイン追及によるアピール性を高めるものとする。

■実施主体：長島町

■実施期間：H22年度～24年度

◆サインの現状



【イメージ統一情報ボード（案内板）例】

■港湾案内サイン



■ウエルカム／来島者歓迎サイン



【イメージ統一情報ボード設置例】



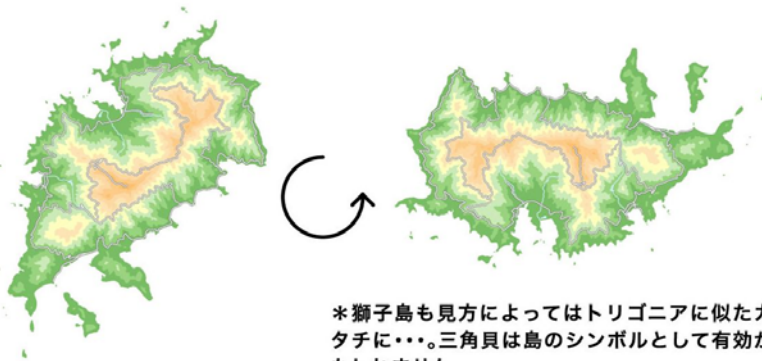
【獅子島航路イメージ統一ロゴ制作例】

たとえば、サインや解説板に使用するマークに、獅子島を代表する化石の一つであるトリゴニア(三角貝の一種)をモチーフにしたものを使用し、島全体の周遊案内に「わかりやすさ」と「統一感」を持たせます。ロゴや色彩計画も同様にオリジナルの統一感を重視します。



【Trigonion】
トリゴニア

珍しい三角貝。今ではオーストラリア近海に数種類が生息するのみ。獅子島の地層にはこの三角貝だけでも形、大きさの違ういくつかの種類が観察できる。



*獅子島も見方によってはトリゴニアに似たカタチに……。三角貝は島のシンボルとして有効かもしれません。



shishijima



獅子島
し し じ ま



shishijima



獅子島
し し じ ま

【イメージ統一ポイントサイン例】

■展望ポイント例

なたざき
鉾崎 
Cape NATAZAKI

●展望ポイント
島の北東に突き出た岬。
車は左に寄せてください。

 shishijima

■化石採集禁止案内例

No fossil collecting here


protected strata

化石採集禁止地点

 この付近の化石は採集できません。

 shishijima

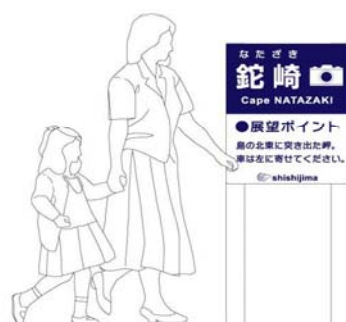
■化石観察地点案内例


fossil point

化石観察地点
ここでは主に三角貝や貨幣石の化石を見ることができます。

 shishijima

■展望ポイント例



■化石採集禁止案内例

*将来的に保存すべき特に貴重な化石層に表示を機材します。



■化石観察地点案内例



船でわたろう獅子島へ

お得な天草へのフェリー乗り継ぎチケット発売中！

天草
中田港へも行けます！

片側港

獅子島

↑
この先、6 Km
諸浦港から乗船
しょうら

発着時刻は
0120-0000-0000
諸浦港待合所でご案内。

shishijima

自動車で移動する人びとを対象に、獅子島へのカーフェリーによるアクセスをアピールし、さらに、それが天草への中継経路になることも訴える路上情報サインの例である。走行する自動車からの視認性を考えると最小限の情報しか掲示できないので、旅客船情報は割愛し、あくまでも自動車利用による獅子島へのアクセスを記載したもの。ここから諸浦港までの距離を明示する。また、すぐに発着時刻を知ることができるよう、待合所の電話番号を記載し、利用者をフェリーに誘導するよう工夫する。

ちなみに、このサンプルでは天草中田港へ乗り継ぐ人のために「割引チケット」を発売したと仮定して、そのことも記載している。時間に余裕のある人は、天草に渡るついでに「行ったことのない獅子島を訪ねる」可能性がある。したがってこのような割引チケットの発売も実証実験する必要がある、その場合はサインやインターネットなどを使った十分な情報発信が求められる。

事業２－２ 獅子島航路PRツールの開発

獅子島航路の認知度を高めるためには、獅子島そのものの魅力や周辺地域との連携を意識したマップ等の作成は欠かせない。当地域は県境にあることから、行政区域を越えた地域案内が不足しており、本事業では、獅子島島内及び地域間移動を促進するための地図やポスター、パンフレット等を作成する。なお地図の作成では、ベースとなる基本地図を作成し、用途に応じた地図への多様な展開を推進する。

(1) 基本地図、展開地図、ポスター、パンフレットの制作

■実施主体：長島町

■実施期間：H22年度～24年度

【想定される具体的なプログラム】

- ・基本航路図、新幹線からの連続航路図、天草～獅子島～本土のルート航路図作成
- ・新水俣駅～バス連絡ルート地図、出水駅～国道ルートフェリー地図作成
- ・天草観光連携フェリー航路地図作成、環八代海ドライブ&フェリールート地図作成
- ・各港や乗場への詳細アクセス地図作成
- ・連携航路接続時刻表、二次交通接続時刻表の発行

【展開地図の作成事例】



■地図による情報発信例

ex:フェリー内、待合所掲示などに有効

特徴・・・本当に使える地図を追求する。

- ・距離感がつかめる正確な地図に主要区間の所要時間も記入。
- ・道路の状況がわかる解説付き。
- ・どの港に「カーフェリー」が発着するか、「旅客専用船」が発着するかを明記する。
- ・見どころ情報を探しやすく、わかりやすい案内を厳選する。
- ・写真や文章に「わかりやすさ」「美しさ」など、質の高さを追求する。

事業 2-3 獅子島航路WEBサイトの構築

長島町のWEBサイトを基本に、獅子島航路と獅子島の情報を記載するサブ・ページを作成、実験的に配信する。島民への情報と島外者への情報に分け、双方に有効な情報を効果的に盛り込んだ内容とする。島民には路線バスの接続情報や航路ニュースを、島外の人びとには、獅子島がどのような島か、どうすれば船舶でアクセスできるのかを明快に示す内容とする。また、長島商工会のHPとリンクすることで長島町内の関係団体とのネットワークを拡大する。

■実施主体：長島町

■実施期間：H22年度～24年度

【インターネット上に展開する情報発信の例】

現状では獅子島への船舶によるアクセス方法が島外の人びとにわかりにくく、自動車の有無による船の使い分け、所要時間、発着時刻などの情報が入手困難な状況にある。そのため、島へのアクセス情報をネット上でわかりやすく公開することが重要である。

旅行や移動に先駆けてインターネット上で情報を入手する行為はもはや一般的であり、これに的確に対応するWEB体制を整えれば、利便性が向上し船舶を利用する機会が増大するものと考えられる。

【WEBサイトの作成事例】

カーフェリー利用と旅客船利用の使い分けについて、簡単に理解できるよう2つのアイコンを用意し、車有り、車なしの双方に対応できるよう情報を統一する。それぞれの旅程と発着時刻、のりばと二次アクセスについてはリンクで対応し、時刻表管理ページとつなぐことで運営者側のメンテナンスも容易にする。トップページでは獅子島の観光情報やイベント情報、住民に対する生活情報もリンクさせ、長島町のホームページと連携するリンクも張る。

事業２－４ 水俣・長島・天草での航路利用促進に向けた周知活動

獅子島航路のウィークポイントは島外の人びとに獅子島自体のことが認知されていないことである。また、天草と本土を結ぶ中継媒体としての獅子島航路も認知度は極めて低い。本事業では獅子島に関する情報を発信する場を最も効果的と思われる連携地域（水俣・長島・天草）に求め、必要な情報を厳選しながら発信する。

また、長島にオープンした黒之瀬戸だんだん市場や天草牛深港の海彩館、ＪＲ新水俣駅、出水駅など、獅子島へのアクセスに便利なポイントにおいて情報発信の機会を得る。

（１）地域イベントでの航路情報の発信

■実施主体：長島町、天長フェリー、波戸汽船、獅子島汽船

■実施期間：Ｈ２２年度～２４年度

（２）黒之瀬戸だんだん市場や新幹線新水俣駅観光案内所等での航路情報の発信

■実施主体：長島町、水俣市、天草市

■実施期間：Ｈ２２年度～２４年度

【新幹線車内における航路情報発信の例】

新幹線全線開通は、獅子島航路の利用促進に大きなきっかけを与えることになる。ただし、これまでのように情報発信が行き届かない場合、獅子島航路はおろか、獅子島が新幹線沿線に存在する「近い離島」であることも認知されないことが懸念される。航路の存在をアピールすると同時に、「新水俣駅から車が無くても渡れる島」であることを十分にアピールし、積極的に航路利用を呼びかける必要がある。

ここで示すのは新幹線の妻壁に設置された広告枠を利用するＰＲの例である。新水俣駅で降りて水俣港から旅客船に乗る「車なし」パターンと、出水駅で駅レンタカーを借りて「車ごと」獅子島に渡るパターンを情報発信する。九州新幹線「つばめ」の妻壁は美しく、シンプルな広告が生きる所以、このようなわかりやすいＰＲ方法がマッチすると思われる。

【航路情報発信事例】

事業２－５ 新幹線全線開通を見据えた大都市圏での獅子島アクセスアナウンス

航路の運航情報や島の魅力を盛り込んだポスター、チラシ、パンフレットなどのセットを制作し、大都市圏の観光案内施設（アンテナショップなど）等の情報コーナーに設置するとともに広く配布する。

（１）鹿児島県の観光案内施設での獅子島航路の情報発信

■実施主体：長島町

■実施期間：H 2 2 年度～2 4 年度

【想定される具体的なプログラム例】

- ・鹿児島県アンテナショップ「かごしま遊楽館」での航路情報発信
- ・各種地域情報誌での航路情報発信

（２）離島体験や化石関連ツアー募集における交通情報の提供

■実施主体：長島町

■実施期間：H 2 2 年度～2 4 年度

事業3 航路を活用した周辺地域との交流促進事業

航路を継続的に活用してもらうために来島者、寄島者に対する受け入れ体制を整備し、船に乗って訪れる人びとと獅子島及びその周辺地域の住民との交流を考え、実践する。

事業3-1 獅子島及び周辺地域の住民との連携による航路利用促進のための組織強化

獅子島公共交通ネットワーク協議会の下に、航路事業者、バス・鉄道事業者、獅子島住民、NPO等の活動団体、長島・天草・水俣の商工観光関係者、民宿経営者等からなる航路利用促進部会を立ち上げ、航路活性化・再生に向けた具体的な行動を起こす。

■実施主体：長島町、天草市、水俣市、獅子島振興会、長島町の商工観光団体

■実施期間：H22年度～24年度

【想定される具体的なプログラム例】

- ・住民参画による事業の実施

＜今あるものを活かすために島民自らが考える＞

獅子島住民が、自身の住まう地域について視点を変えて見る機会となり、獅子島の誇りや発展性を追求することにつながる。同時に船と航路、そこから連続する島内交通に興味を持ってもらい、島民による「受け皿」づくりを積極的に進める。

事業3-2 航路を利用した地域間交流促進事業の実施

獅子島周辺地域の連携による地域間交流の促進を目的とした、獅子島航路活性化・再生会議（仮称）を開催し、航路を利用した地域イベントの開催や地域連携の旅行商品の企画等を共同で実施する。

■実施主体：長島町、天草市、水俣市

■実施期間：H23年度～24年度

【想定される具体的なプログラム例】

- ・地域連携の旅行商品企画と実施
- ・獅子島ウォークの活用
- ・海洋スポーツイベントとの連携
- ・御所浦白亜紀資料館との連携による水俣港発のジオパークツアー
- ・島の旅や自然環境教育をテーマにした旅行受入れ